

# 防災教育と気候変動教育

コーディネーター：及川幸彦

# • パネリストの発表

## 1. 望月要子(ユネスコ事務局ESD課)

### 国際的背景の概観

- 気候変動教育の現状: 科学的分析から災害リスク削減のための教育へ
- DESDの文脈: ①気候変動、②DRR、③生物多様性の3分野がESDの戦略的入り口となる
- ポストMDGs: 2015年以降のGoalの中に先進国、途上国共通の課題(特に気候変動・災害に対応しうる社会をつくる)
- 気候変動と人間 = 悪影響の犠牲者 (Victim)、張本人 (Driver)、解決の主体 (Agent)

## 2. カルティケーア・サラバイ(インド・環境教育センター(CEE)所長)

### インドからの事例

- 気候変動と自然災害の違い
- CEEの実践と防災プロジェクトの目的(希望を絶やさない、暮らしの再建、信頼をとりもどす)

### ☆コミュニティのリーダーシップ

援助者が与えるのではなく、被災者が自分たちの能力で地域をコントロールしていくのだという気持ちをもつ←持続可能な開発のための努力

### 3. 小金澤孝昭(仙台広域圏ESD・RCE運営委員会委員長)

仙台広域圏を事例とした防災・復興教育

－防災教育

地域ごとに被害が異なる。地域環境や特性を踏まえた防災教育

－復興教育

現在の持続可能でない地域をどのように復興させるか。

1. 地域社会、経済の構造を理解すること
2. 地域社会と地域環境との関係～生態系サービス

### 4. 柴尾智子(ACCU事業部次長)

ACCUの防災教育

－ACCUの理念:アジアの識字教育→環境教育のための教材づくり

→防災教育の教材づくり (たとえば、先人の知恵に学ぶ)

様々なプログラムの実施:アジア防災フォーラムなど

東日本大震災を受けて、「みんなひとつプロジェクト」を実施

アジアのこどもたちの「何かしたい」を形に。

☆交流を通して、国際理解、ESDと一緒に学びあう。

# ESDと防災教育

1. ESDと防災教育の親和性 (Synergy)
2. レジリエンス (①インフラ、②資質・能力、③心)
3. ESDの防災教育への効果的機能
  - ①危機管理
  - ②防災教育
  - ③復興教育

# 1-2 防災教育の改善～気仙沼の提案

① **自助** → 自分の身を守る力 (判断力)

② **共助** → 共に助け合う力を (協働)

③ **公助** → 行政との連携 (組織力)

+

④ **N助** → **N**PPO/**N**NGO + **N**etwork = **N**ew



◆ 自助、共助、公助 + N で命を守る

## 2-2 自助(危機管理・危機対応力)とESD

### ☆ESDが育む力

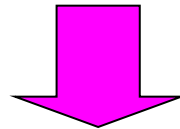
- 批判的思考力 **Critical Thinking,**
- 体系的思考力 **System Thinking,**
- 包括的思考力 **Holistic Thinking,**
- コミュニケーション能力 **Communication**
- 情報収集・分析力 **Collecting and Analyzing Information**
- 意思決定・行動力 **Decision Making and Action.**

 災害・危機的状況の中では不可欠な能力

## 3-2 共助・公助＋N助とESDの機能

### ESDは連携を促進

- 自治会、コミュニティとの連携（共助）
- 行政機関、関係機関との連携（公助）
- NPO/NGO, 企業、大学との連携（N助）

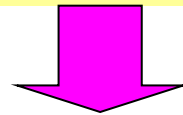


### 多様な主体の参画と協働

これらの絆は、地域での避難行動や避難所運営など危機管理で効果的に機能

# 4 復興に向けたESDの視点

- 自然環境と共生する心
- 故郷の伝統を受け継ぐ心
- 地球市民としての資質
- 国や地域を結ぶ絆
- 未来をデザインする力



ESDを基本理念とした復興教育の推進



# 5 大震災の中で生きた教育



自分たちにしかできない取組を!!

# 1. ESDの強みを防災教育に活かす

①問題解決型

②Networking

ESDの財産↓

防災に投入することができる

↓↑

ESDの様々な部分が繋がってくる

# 2. 同じ空間(地球)から学ぶ

東北から海外へ発信することで起こりうる災害  
を回避できるのでは(知の連鎖)

# 最後に～震災を生き抜く気仙沼の子供たち



「水を運ぶ少年」



「井戸の水をくむ少年」

＜共同通信＞